



## 2021年度 太平洋いわし類長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(2022年4月～7月)のポイント

#### 海況

黒潮はA型<sup>(※1)</sup>基調で推移する。

沿岸水温は、室戸岬以西は「**平年並**」<sup>(※2)</sup>～「**高め**」<sup>(※2)</sup>、紀伊水道外域は「**やや低め**」<sup>(※2)</sup>～「**平年並**」で暖水波及時に「**やや高め**」<sup>(※2)</sup>、熊野灘～遠州灘～相模湾は「**平年並**」～「**高め**」で暖水波及時に「**極めて高め**」<sup>(※2)</sup>、伊豆諸島海域は「**高め**」～「**極めて高め**」、房総～常磐南部海域は「**平年並**」～「**やや高め**」で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する A型：流路南端が北緯32度以南

※2 平年並＝平年値±0.5℃程度、やや低め＝平年値－1.0℃程度、  
やや高め＝平年値＋1.0℃程度、高め＝平年値＋1.5℃程度、  
極めて高め＝平年値＋2.5℃以上。

ただし、鹿島灘～常磐南部海域の基準は次頁末尾を参照のこと。

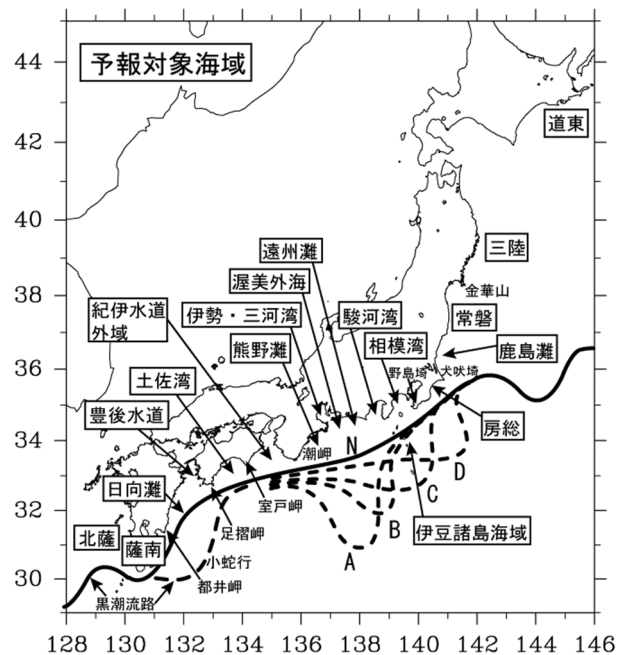
#### 漁況(来遊量予測)

##### マイワシ

房総以北では前年並～上回り、相模湾以西では前年並～下回る。

##### カタクチイワシ

依然として低水準であり、全体としては前年並。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当 企画調整部門(横浜) 森永

漁況：浮魚資源部(横浜) 福若、由上、古市、木下

海況：海洋環境部(横浜) 市川、伊藤

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

## 中央ブロック海況予報

### 今後の見通し（2022年4月～7月）

#### (1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

##### ◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、接岸傾向で推移する。
- ・足摺岬沖では、4月は離岸傾向で推移するものの、5月以降は徐々に接岸傾向となる。
- ・室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向で推移する。

##### ◎潮岬以東

- ・大蛇行が継続し、A型基調で推移する。
- ・蛇行北上部は伊豆諸島海域の西側に位置し、一時的に熊野灘まで接近することがある。
- ・房総沖では、概ね接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがある。

#### (2) 薩南～房総海域

- ・都井岬～足摺岬沖は、暖水に覆われることが多い。
- ・室戸岬～潮岬沖は、冷水域となるものの、黒潮から暖水が波及することが多い。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、黒潮の接近や黒潮系水の波及に伴い暖水に覆われる。
- ・伊豆諸島海域は、概ね暖水に覆われる。
- ・房総沖では、黒潮から暖水が波及しやすいものの、一時的に沿岸水が分布することがある。

#### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮から暖水が波及しやすい。

#### (4) 沿岸水温

- ・室戸岬以西は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・紀伊水道外域は、「やや低め」～「平年並」で推移するが、暖水波及時には「やや高め」となることがある。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島海域は、「高め」～「極めて高め」で推移する。
- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上  
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.6～3.9℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±4～6℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6.1℃以上）

## 経過（2021年12月～2022年3月）（注：経過は図2を参照のこと）

### (1) 黒潮

- ・ A型流路の大蛇行が継続した。
- ・ 2月上旬、大蛇行に伴う内側冷水渦の一部が南側に切離した。
- ・ 2月上旬以降、小蛇行の東進に伴い都井岬～潮岬沖で大きく離岸した。
- ・ 12月～1月にかけて、蛇行北上部が遠州灘沖でS字状となり、12月下旬～1月中旬には黒潮屈曲部が潮岬～熊野灘～遠州灘に接近した。
- ・ 房総沖では、1月中旬～下旬に一時的に離岸した以外は、接岸傾向で推移した。

### (2) 薩南～房総海域

#### ◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は、12月～1月は「接岸」、2月は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

#### ◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、12月は接岸傾向、1月～2月は離岸傾向で推移した。
- ・ 足摺岬沖では、12月上旬～1月中旬は「かなり離岸」、1月下旬に一時的に「接岸」したが、2月以降は「著しく離岸」で推移した。
- ・ 室戸岬沖では、12月は「著しく離岸」、1月には徐々に「接岸」し、2月以降は「著しく離岸」で推移した。
- ・ 紀伊水道外域では、黒潮北縁から繰り返し暖水が波及した。
- ・ 潮岬沖では、12月下旬～1月中旬に黒潮屈曲部が近づき「接岸」した以外は、「著しく離岸」で推移した。

#### ◎潮岬以東

- ・ 12月中旬～1月下旬、S字状となった蛇行北上部が熊野灘～遠州灘に接岸した。
- ・ 1月下旬～2月中旬、熊野灘では接近した黒潮系暖水の影響が残ったほか、2月中旬以降には黒潮北縁から遠州灘～熊野灘へ暖水が波及した。
- ・ 駿河湾、大島西水道へ向けて断続的に暖水が波及した。
- ・ 黒潮は、三宅島～御蔵島南沖付近を北東～東向きに流れた。
- ・ 房総海域では、概ね黒潮系暖水がみられた。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 期間を通じて、断続的に黒潮系暖水の波及がみられた。

## 現 況 (2022 年 3 月 22 日現在)

### (1) 黒 潮

- ・ A 型流路であり、大蛇行が継続している。
- ・ 都井岬～都井岬沖で大きく離岸し、潮岬沖で  $30^{\circ} 30' N$  付近まで南下している。
- ・ 大王崎沖で  $31^{\circ} 30' N$  付近まで北上した後、緩やかに北東へ流れ、伊豆諸島海域を北上し、三宅島付近から北東へ流れている。

### (2) 薩南～房総海域

#### ◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬で「かなり離岸」、足摺岬～潮岬沖で「著しく離岸」している。

#### ◎潮岬以東

- ・ 遠州灘沖に、黒潮系暖水がみられる。
- ・ 伊豆諸島海域は、暖水に覆われている。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 冷水域がみられる。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

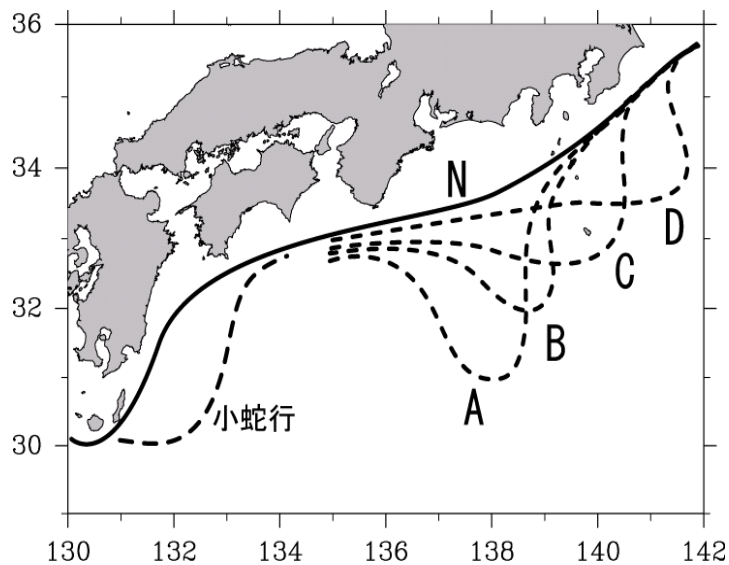


図1 黒潮流型の分類

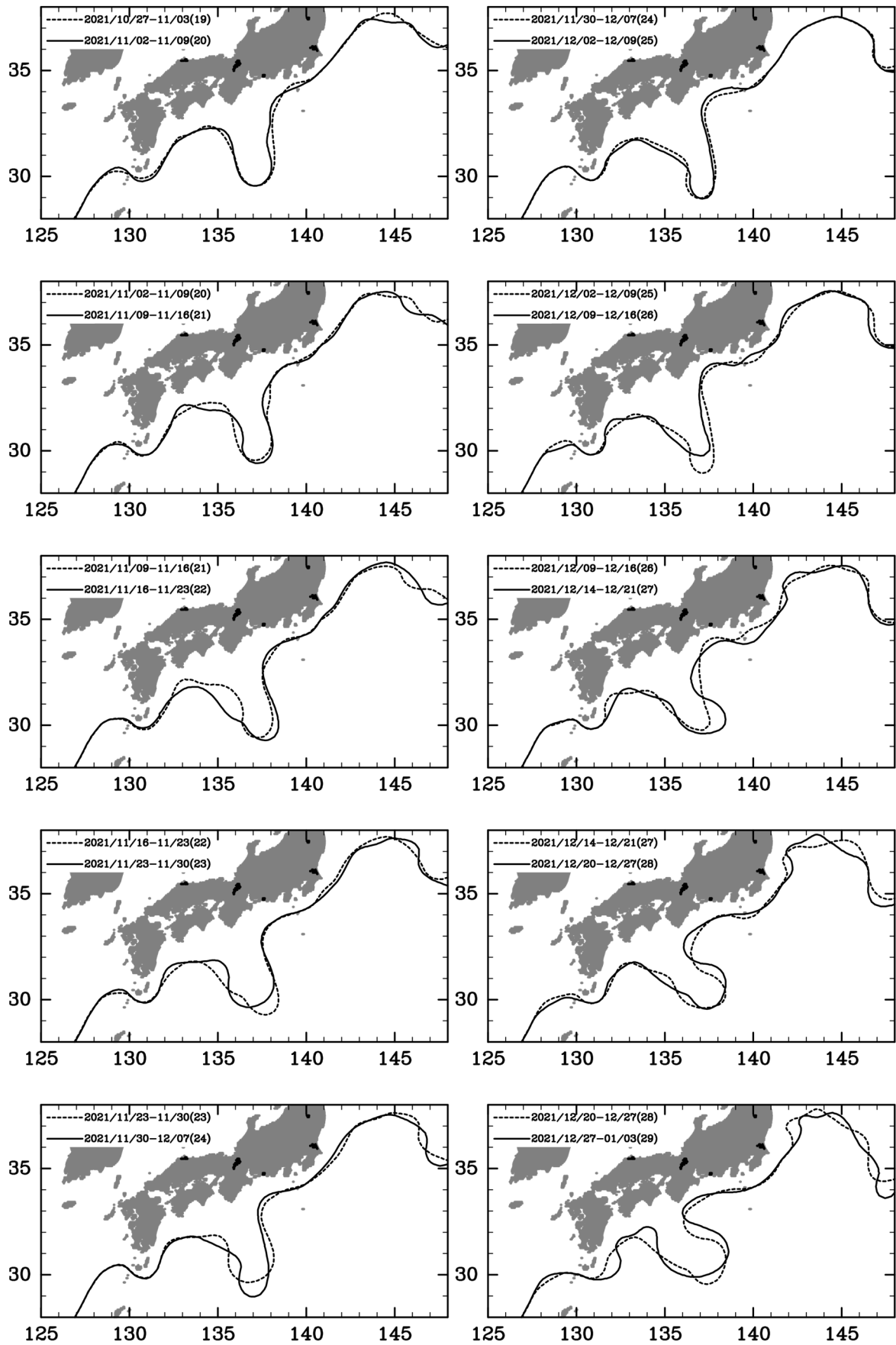


図2 黒潮流軸のパターン

(2021年10月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

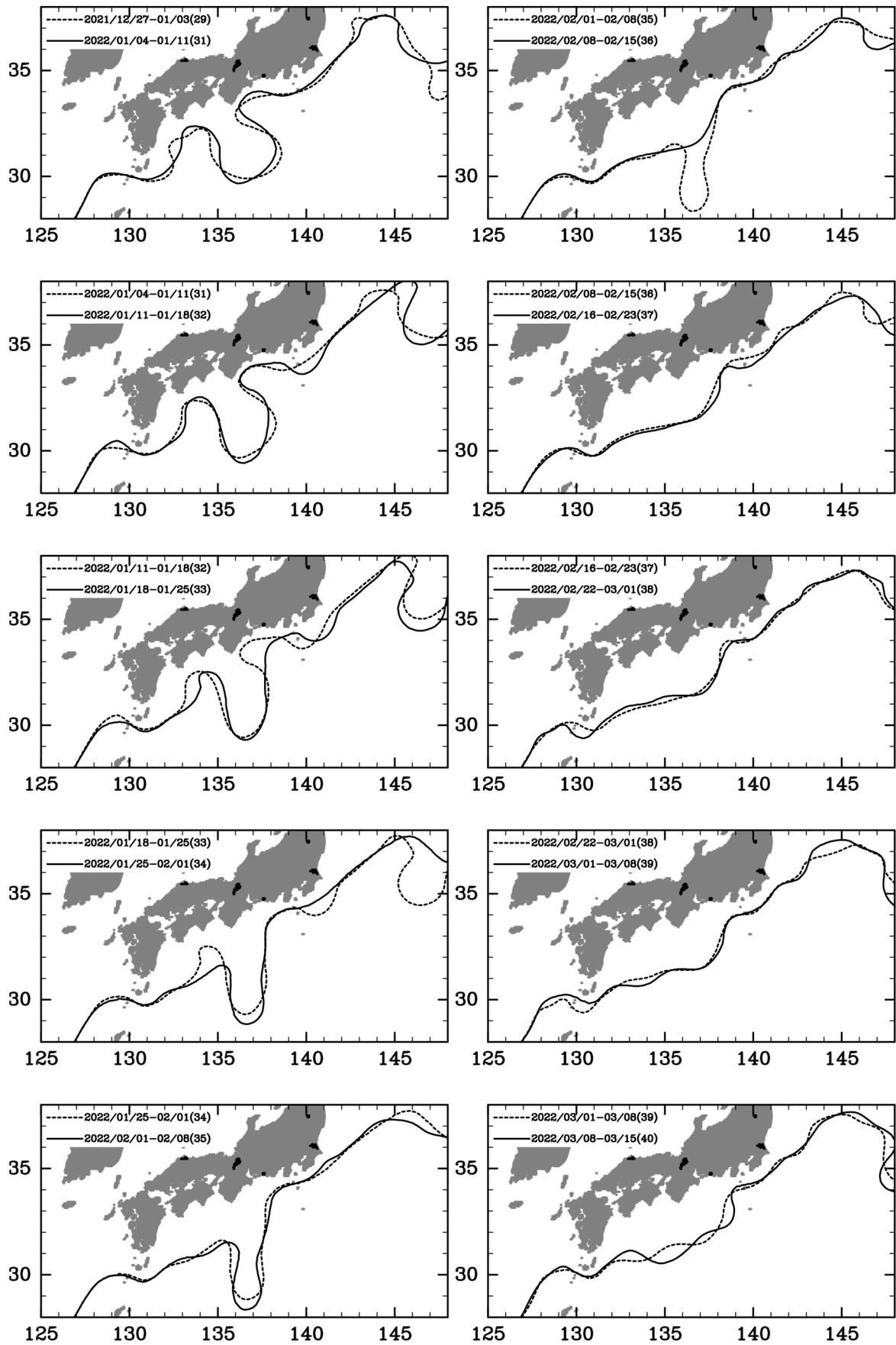


図2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2022年1月~3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

## マイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し (2022年4月～7月)

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚(2022年級群)、1歳魚(2021年級群)、2歳魚(2020年級群)、3歳魚(2019年級群)、4歳魚(2018年級群)。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 北薩～熊野灘(まき網、定置網)

(1) 来遊量：北薩～豊後水道西側では前年を下回る。豊後水道東側～土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域では前年並。熊野灘では前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～豊後水道西側では、期前半は15cm～18cm前後(1歳以上)、期後半は8cm～13cm前後(0歳魚)主体。豊後水道東側では、6cm～10cm前後(0歳魚)主体。宿毛湾～紀伊水道外域では12cm未満(0歳魚)および13cm以上(1歳以上)が漁獲される。熊野灘では14cm以上(1歳以上)主体。

#### 2. 伊勢・三河湾～相模湾(まき網、定置網、船曳網)

(1) 来遊量：伊勢・三河湾～相模湾西部では前年並。相模湾東部では前年並～下回る。

(2) 漁期：伊勢・三河湾、渥美外海では7月以降に本格化。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では14cm未満(0歳魚)主体。駿河湾、相模湾西部では、12cm以下(0歳魚)主体に、13cm～15cm前後(1歳魚)および15cm～17cm前後の(2歳魚)が混じる。相模湾東部では15cm～20cm(2歳魚)主体に、12cm～15cm(1歳魚)が混じる。期後半に14cm未満(0歳魚)も漁獲される。

#### 3. 房総～三陸海域、道東海域(まき網、定置網)

(1) 来遊量：前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐南部海域で断続的に形成され、6月には三陸南部海域、6月下旬以降には道東海域でも形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

(3) 魚体：12cm～15cm前後(1歳魚)、14cm～17cm前後(2歳魚)、16cm～20cm前後(3歳魚)、18cm以上(4歳魚)。期後半には房総海域において12cm未満(0歳魚)も漁獲される可能性がある。

### 漁況の経過(2021年12月～2022年2月)および見通し(2022年4月～7月)についての説明

#### 1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、2010年～2014年に比

較的良好な加入が続いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2014年には100万トンを上回った。その後も良好な加入が続いたことにより資源量はさらに増加して、2020年は321万トンと推定された。

2018年級群（4歳魚）は、加入量が568億尾と推定されており、最近10年（以下、近年）において最も高い値となっている。2021年における3歳魚としての漁獲状況も前年を上回っており、高い豊度を示している。2018年級群の推定残存資源量は、2017年級群の同時期を上回っている。

2019年級群（3歳魚）は、加入量が342億尾と推定されており、近年の高い水準を維持するものの2018年級群を下回る値となっている。2021年における2歳魚としての漁獲状況も、前年を下回った。2019年級群の残存資源量は、2018年級群の同時期を下回っている。

2020年級群（2歳魚）は、加入量が442億尾と推定されており、2019年級群を上回る値となっている。2021年における1歳魚としての漁獲状況は、前年並となっている。2020年級群の残存資源量は、2019年級群の同時期を上回っている。

2021年級群（1歳魚）は、2021年における未成魚としての漁獲状況（主に西日本海域）は、前年を下回っている。沖合域においては、5月～6月の移行域幼稚魚調査（水産資源研究所）および9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（水産資源研究所）に基づく資源量指標値は前年を上回った（ただし、6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（水産資源研究所）に基づく指標値は前年を下回っており、不確実性は大きい）。現時点では不確実であるが、近年の本資源の主体は沖合加入群であることを踏まえ、2021年級群の加入量は前年並～上回る水準と考えられる。

2022年級群（0歳魚）については、現時点ではその水準を予測できない。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

北薩～熊野灘での2021年12月～2022年2月の漁獲量は62トンと前年同期（9,647トン）を大きく下回った。ほとんどの海域において前年を下回る漁獲となっていた。（漁獲量は各地主要港水揚資料および水揚物標本測定結果等からの推定値）

・来遊量：北薩、薩南海域では、4月まで1歳魚（2021年級群）、5月以降は0歳魚（2022年級群）が漁獲の主体となる。本海域において、2021年12月以降、産卵親魚の漁獲が見られないため、来遊量は前年を下回ると予測される。

日向灘では、4月まで1歳以上、5月以降は0歳魚が漁獲の主体となる。本海域の上半期の漁獲動向と関係がみられる前年下半期の三重県・高知県・鹿児島県のまき網漁獲量は低調に推移している。また、2022年1月以降、本海域において成魚が漁獲されておらず、今後の成魚および当歳魚の加入も見込めない。以上より、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道西側では、4月まで1歳魚が漁獲の主体となり、5月以降は0歳魚主体に1歳魚が混じる。2022年1月以降、本海域において漁獲が見られず、近隣の海域も同様に漁獲が低調であることから、今後も来遊は期待できない。以上より、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道東側では、0歳魚が漁獲の主体となる。2021年12月～2022年2月にかけて、本海域において親



魚となり得る成魚が漁獲されていないことから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。冬季の土佐湾におけるシラス漁の漁獲状況から、0歳魚の発生は前年を下回って推移している。また、宿毛湾における中型まき網の漁獲状況から、1歳以上の来遊は前年を下回っている。以上より、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、0歳魚が漁獲の主体となる。本海域においては年間を通じて成魚を漁獲する漁業が少ないため、漁況からの来遊量の予測は難しいが、近年の漁獲傾向から、来遊量は前年並と予測される。

紀伊水道外域東部では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。2022年1月～2月の1そうまき網における漁獲はなく、近年の傾向からすると今期も来遊は見込めない。また、黒潮も引き続き離岸基調で推移すると予測され、マイワシ漁場の形成条件は悪いと考えられる。以上より、1歳以上の来遊量は低調であった前年並と予測される。

熊野灘では、1歳以上が漁獲の主体となる。2021年12月～2022年2月にかけて、本海域においてほとんど漁獲がみられなかった。昨年同様、太平洋系群の資源量に対して本海域への来遊は多くない可能性が考えられる。以上より、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、北薩～豊後水道西側では、期前半は15 cm～18 cm前後の1歳以上、期後半は8 cm～13 cm前後の0歳魚が主体となる。豊後水道東側では、6 cm～10 cmの0歳魚が主体となる。宿毛湾～紀伊水道外域では、12 cm未満の0歳魚および13 cm以上の1歳以上が漁獲される。熊野灘では14 cm以上の1歳以上が漁獲される。

## (2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾～相模湾での2021年12月～2022年2月の漁獲量は5,514トンと前年同期（2,918トン）を上回った。駿河湾～相模湾で前年を上回る漁獲が見られ、伊勢・三河湾では前年並となっていた。

・来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では、0歳魚（2022年級群）が主体となる。2021年12月の卵稚仔調査ではマイワシ卵・仔魚の採集数が少なく、マシラスの来遊水準が低い可能性がある。ただし、マイワシ太平洋系群の資源量は増加傾向であり、海況次第であるが、春以降に黒潮内側域からの来遊が期待できる。以上より、今期の来遊量は前年並と予測される。

駿河湾、相模湾西部では、0歳魚が漁獲の主体となり、1歳魚（2021年級群）および2歳魚（2020年級群）が混じる。太平洋系群の推定親魚量および冬季のマシラス水揚量と4月～7月の水揚量の関係から、今期の来遊量は前年並と予測される。

相模湾東部では、2歳魚主体に、1歳魚も漁獲され、期の後半には0歳魚も漁獲される。本海域における2月までの漁獲状況は前年を上回って推移しており、今後もある程度の漁獲が期待できる。一方、5月以降来遊する0歳魚の資源水準は現時点では不明であるが、伊豆諸島海域において産卵群が多く確認されていることから、多くの0歳魚の発生そして本海域への加入が期待される。以上より、好調な来遊水準が期待できるものの、前年の漁獲量が突出していること等を考慮し、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾、渥美外海では7月以降に本格化。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

・魚体：近年の出現状況から、伊勢・三河湾、渥美外海では14 cm未満の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では、12 cm以下の0歳魚が主体となり、13 cm～15 cm前後の1歳魚および15 cm～17 cm前後の2歳魚が混じる。相模湾東部では15 cm～20 cm前後の2歳魚が主体となり、12 cm～15 cm前後の1歳魚も混じる。期後半には、14 cm未満の0歳魚も漁獲される。

### (3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

房総以北のまき網での2021年12月～2022年2月の漁獲量は6.6万トンと前年同期（3.0万トン）を上回った。房総以北の定置網等での2021年12月～2022年2月の漁獲量は2.6万トンと前年同期（2.1万トン）を上回っており、北海道の定置網で12月に前年を大きく上回る漁獲が見られ、それ以外の海域では前年並～下回る漁獲となっている。

・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は1歳魚（2021年級群）、2歳魚（2020年級群）、3歳魚（2019年級群）および4歳魚（2018年級群）となる。また、期後半には房総海域沿岸において0歳魚（2022年級群）も漁獲対象となる可能性がある。

資源状態を反映し、2歳以上の来遊量は前年並の高水準になると考えられる。1歳魚の来遊量は、現時点では不確実であるが、沖合域での調査結果から前年並～上回ると考えられる。0歳魚の来遊量は、現時点では不明だが、ほとんど漁獲対象にならなかった前年をさらに下回る可能性は低い。以上より、全体としての来遊量は前年並～上回ると予測される。ただし漁獲量は、まき網の操業状況に左右される。

・漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐南部海域で断続的に形成され、6月には三陸南部海域、6月下旬以降には道東海域でも形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

・魚体：近年および直近の出現状況から、1歳魚は12 cm～15 cm前後、2歳魚は14 cm～17 cm前後、3歳魚は16 cm～20 cm前後、4歳魚は18 cm以上。まき網では、4月～5月は3歳以上が主体となり、6月には全年級群が漁獲される。また、期後半には12 cm未満の0歳魚がまとまって漁獲される可能性がある。定置網では1歳魚～4歳魚が主体となる。

## カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2022年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2022年級群）、1歳魚（2021年級群）、2歳魚（2020年級群）。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

#### 1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～紀伊水道外域、鹿島灘～常磐南部海域では予測が困難。伊勢湾、渥美外海では前年並。遠州灘～駿河湾では下回る。相模湾では上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

#### 2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では下回る。日向灘、豊後水道南部西側では上回る。豊後水道中南部東側、宿毛湾・土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：4 cm～11 cmの0、1歳魚主体。

#### 3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘ではまとまった漁獲がない。伊勢・三河湾、駿河湾、相模湾西部では前年並。相模湾東部では下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される（ただし、伊勢・三河湾では7月以降に本格化）。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では8 cm以下の0歳魚主体、その他の海域では、9 cm～12 cmの1、2歳魚主体に0歳魚が混じる。

#### 4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総・常磐海域、三陸南部海域では前年並。三陸北部海域ではまとまった漁獲がない。道東海域では予測が困難。

(2) 漁期・漁場：房総海域～鹿島灘では期を通じてまき網により漁獲されるが、極めて散発的。

(3) 魚体：7 cm～13 cmの1歳魚主体に漁獲され、12 cm以上の2歳魚が少量混じる。

### 漁況の経過（2021年12月～2022年2月）および見通し（2022年4月～7月）についての説明

#### 1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2021年度資源評価において、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2020年は14万トンと推定された。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2020年級群（2歳魚）は加入量が207億尾と推定されており、2019年級群の273億尾を下回った。2020年級群の0歳魚および1歳魚としての漁獲量は2019年級群のそれらを下回る水準と推定される。沖合域の調査船調査では、2021年の北西太平洋北上期浮魚類資源量調査（水産資源研究所、以降は北上期調査）における推定1歳以上のCPUEは、引き続き低水準で前年より低かった。北西太平洋秋季浮魚類資源量調査

(水産資源研究所、以降は秋季調査)における推定1歳以上のCPUE(暫定値)は前年を上回り、2020年同様、東経160°以東の亜寒帯水域に少ないながらも分布が認められた。また、道東海域における2021年9月の浮魚類漁期中調査(釧路水産試験場)における推定1歳以上の流し網CPUEが2006年以来の高水準となった。以上のことから、2020年級群は依然として低水準ではあるが、沖合域においても分布が認められつつある。

2021年級群(1歳魚)は、2021年7月~11月に東海海域を中心に、カタクチシラスや0歳魚として漁獲され、それらの漁獲量は前年を下回った。沖合域の調査船調査では、2021年の北上期調査において、推定0歳魚のCPUEは前年を上回った。秋季調査における推定0歳魚のCPUE(暫定値)も前年を上回り、東経160°以東の亜寒帯水域にも分布が認められた。これらのことから、2021年級群は依然として低水準であるが、前年を上回る水準と考えられる。

2022年級群(0歳魚)は、現時点ではその水準を予測できない。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 西薩~常磐南部海域のシラス(船曳網)

・来遊量：西薩~紀伊水道外域では、シラスの来遊量については予測が困難である。

伊勢・三河湾、渥美外海では、期を通じて漁獲される。資源量が低水準とされているカタクチイワシのシラス来遊量の急増は見込めないが、近年増加しているマシラス来遊量は期待できる。黒潮流路はA型が継続する予報で、春季の沿岸水温が高めで推移し、餌料環境が良好となると予想される。また、ここ数年、内湾の産卵水準は向上し、沿岸湧昇等の好適な条件に恵まれれば、漁獲量の増大が期待できるため、前年並と予測される。

遠州灘~駿河湾では、マシラスの漁獲量は、マイワシ太平洋系群の親魚量の増加に伴い、近年は3月~6月にマシラスがまとまって漁獲されていることに加え、2022年1月以降のマイワシ漁獲量が前年を上回っており、親魚の来遊状況は引き続き好調と考えられることから、前年並と予測される。カタクチシラスの漁獲量は、3月~6月のカタクチシラス水揚量と12月~翌2月の宮崎県におけるまき網のカタクチイワシ日別CPUEの合計値に正の関係があり、宮崎県のカタクチイワシ日別CPUEの合計値が前年を下回ることから、前年を下回る。シラス全体の来遊量は、主体であるカタクチシラスが前年を下回ると予測されるため、前年を下回ると考えられる。7月の漁獲量は現時点では予測が困難である。

相模湾では、期を通じて漁獲されるが、漁況は海域による偏りが生じる場合がある。今期の漁獲物は、湾外で発生したカタクチシラスが主体と予測される。前年同期の相模湾シラス漁獲量は過去20年間で3番目に低い水準であった。不漁であった原因ははっきりしないが、2021年3月は黒潮が潮岬~房総半島を大きく離岸する流型となっており、そのため相模湾へシラスが来遊しにくかったとも考えられる。一方、今年3月現在の黒潮流型は黒潮蛇行が駿河湾沖で北上し、暖水が相模湾内に入りやすい状況にある。また、カタクチイワシ太平洋系群の資源水準が低調な近年においても、東海以西のシラス漁獲量は比較的安定していることから、相模湾の春シラスの好不漁は親魚の資源水準よりも海況に大きく左右されていると考えられる。以上のことから、不確定要素は多いが、前年よりも湾外のシラスが来遊しやすい海況であることから、来遊量は不漁であった前年を上回ると予測される。

鹿島灘～常磐南部海域では、近年のカタクチイワシの春の産卵盛期は4月～5月で、盛漁期は6月～7月となる傾向がある。期前半（4月～5月）の海況は黒潮からの暖水波及を受けてシラスの生息に適した暖かい海になると予測しているが、盛漁期の期後半（6月～7月）の海況は現時点では予測が困難であることから、来遊量の予測は困難である。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。

### (2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲主体となる1歳魚（2021年級群）は、2021年12月以降のカタクチイワシ漁況が前年を下回って推移していること、2021年シラス秋漁も前年を下回って推移したことから、前年を下回ると予測される。期後半に漁獲される0歳魚（2022年級群）の現時点での予測は困難である。

日向灘では、5月までは、足摺岬以東由来と考えられる大型成魚群の来遊が漁獲の好不調を左右し、夏秋期は、被鱗体長10cm～11cm台主体の沿岸加入群が漁獲の主体となる。近年、大型成魚の来遊はほとんどみられず、今期も漁獲の主体となる可能性は低い。沿岸加入群の漁獲動向は、前年10月～12月の宿毛湾まき網漁獲量（銘柄：ドロ～タレ）と宮崎県シラス漁獲量（前年8月～12月）の相乗平均値を指標値として予測しており、前年12月の時点で指標値が前年を上回っていたため、沿岸加入群の来遊は前年を上回ると予測される。12月以降カタクチイワシの漁獲はないが、12月のシラス漁獲量は前年を上回っており、シラスに占めるカタクチシラスの割合が高い。以上のことから、来遊量は前年を上回ると予測される。

豊後水道南部西側では、例年、4月～6月は1歳魚を主体に0歳魚が混じる。2021年のカタクチイワシ漁獲量は平年（1986年～2020年）を大きく下回ったが、2021年12月～2022年2月の漁獲量は平年並であったことから、3月以降も引き続き平年並で推移する可能性が高い。よって、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

豊後水道中南部東側では、予測期間中は0、1歳魚が主体となる。0歳魚の予測は難しいが、2021年12月～2022年2月にかけて0歳魚主体の漁獲量が前年同期を下回ったことから、来遊量は好漁であった前年並～下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、4月～7月の宿毛湾中型まき網水揚量と前年10月～12月の宿毛湾中型まき網および日向灘まき網の水揚量合計の間には、弱い正の関係が見られる。この関係から、4月～7月の中型まき網の漁獲量は423トンと推定され、前年同期の漁獲量が456トンであることから、来遊量は前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：4cm～11cmの0、1歳魚主体。

### (3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：熊野灘では、冬季に来遊する魚群は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、黒潮域から大規模回遊を行う群れと考えられ、漁獲動向も前年の熊野灘とは連動しない。2021年の秋季調査（水産資源研究所）

によると、秋季に沖合に分布するカタクチイワシの資源量は引き続き低い水準にあると判断されることから、ほとんど来遊は見込めないと予測される。

伊勢・三河湾では、カタクチイワシ太平洋系群の資源状態が低水準であるため、外海および内湾への来遊量は少ないと考えられる。また、自主的な休漁期間が設定された場合の漁獲はなくなるため前年並と予測される。

駿河湾、相模湾西部では、相模湾西部の定置網による他魚種に混ざっての漁獲が主であり、駿河湾のまき網による漁獲は散発的となる。漁獲対象となる1歳魚（2021年級群）の資源水準は、前年に引き続き非常に低水準と推定されていることから、来遊量は低水準だった前年並と予測される。

相模湾東部では、A型流路が継続した2018年以降、主要定置網1月～2月漁獲量と同年4～7月漁獲量の間には正の関係があり、2022年1月～2月の漁獲量から予測される4月～7月漁獲量は前年同期を下回ることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾では7月以降に本格化、その他の海域では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：伊勢・三河湾では8 cm以下の0歳魚主体、その他の海域では9 cm～12 cmの1、2歳魚（2020年級群）主体に、0歳魚（2022年級群）が混じる。

#### (4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：房総・常磐海域では、例年、2歳魚主体の大型魚と1歳魚主体の小型魚が漁獲対象となる。前年11月～12月0歳魚と1月～6月1歳魚の漁獲量合計値と、11月～12月1歳魚と翌年1月～6月2歳魚の漁獲量合計値が正の関係にあることから、前年漁期の小型魚が翌年に大型魚となって再来遊すると考えられている。2020年11月～2021年6月の房総・常磐海域における2020年級群の漁獲量は、3,545トンで1999年以降最低であった前年（2,987トン）を上回ったものの依然低水準であることから、大型魚は漁獲の主体とはならない。房総沿岸域における1歳魚は、2021年12月以降の三陸海域の定置網による漁獲が低水準であることに加え、房総海域の中型2そうまき網による漁獲がわずかであったことから、南下群は少ないと考えられる。一方で、駿河湾～遠州灘における秋季のシラス漁獲が前年並であったことから、北上群は前年並の水準が期待される。以上より、低水準ながら前年並と予測される。常磐沿岸域においても、2021年12月～2022年2月は大型成魚と小型成魚ともに来遊がほとんどなかったことから、今期の来遊量は低水準であった前年並と予測される。

三陸南部海域では、これまでの漁況経過から判断すると、前年並と予測される。

三陸北部海域では、漁業情報から、まとまった漁獲がない。

道東海域では、2021年9月の浮魚類漁期中調査（釧路水産試験場）の調査船調査結果から当該海域におけるカタクチイワシの来遊量が増加傾向にあると考えられるため来遊する可能性はあるが、マイワシの来遊量が本年と同程度であった場合、まき網船は本種ではなくマイワシを対象とした漁獲を行うと考えられる。したがって、今期に本種を対象とした漁獲が行われるかどうかは予測が困難である。

- ・漁期・漁場：房総海域～鹿島灘においてはまき網により期を通じて漁獲されるが、極めて散発的。
- ・魚体：7 cm～13 cmの1歳魚主体に、12 cm以上の2歳魚が少ないながらも漁獲される。

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産海洋研究センター	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産・海洋技術研究所	(取りまとめ機関)
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
三重県水産研究所	